

## 遺跡紹介

# 陣場山遺跡

岡本芳明

### 【概要】

陣場山遺跡は、岡山市東区瀬戸町江尻に所在した遺跡で、現在は消滅し旭ヶ丘団地となっています。陣場山という名称は、天正10(1582)年の羽柴(豊臣)秀吉が中国征伐に出陣の際に一時この山に陣をしいたという伝承からといわれています。古くから古墳の存在が知られ、明治末頃の植林が行われた時に多くが盗掘されていたようです。

昭和10(1935)年頃、陣場山北丘頂上の稲荷社再建によって、数基の古墳が確認され一部が破壊されました。昭和27(1952)年には、陣場山南丘上の忠魂碑建設により、円筒棺や円筒埴輪棺を埋葬主体とする二基の古墳が発見されて破壊、さらに昭和35(1960)年頃には、農免道建設に伴う採土のため南丘全体が消滅しています。これらの

再度にわたる破壊に際し、研究者によって辛うじて概要が報告されています。

そして、昭和47(1972)年から約2年間にわたり、大規模な住宅団地造成に伴って陣場山および向山南麓を対象に発掘調査が行われました。弥生時代の住居跡や土壇墓、埴輪棺を埋葬主体とする多数の古墳、古代の建物群が確認されました。

この発掘調査は、取り掛かり当初から遺跡保護団体、行政、開発業者、地元住民と十分な調整が行われておらず、様々な問題が起これ遺跡の一部調査は未完了のまま団地造成されました。調査報告書は、作成途中で調査員が解雇されて未刊となっています。

なお、旭ヶ丘団地の北にある瀬戸旭ヶ丘緑地の一面に遺跡公園があり、6号墳の箱式石棺が移築保存されています。

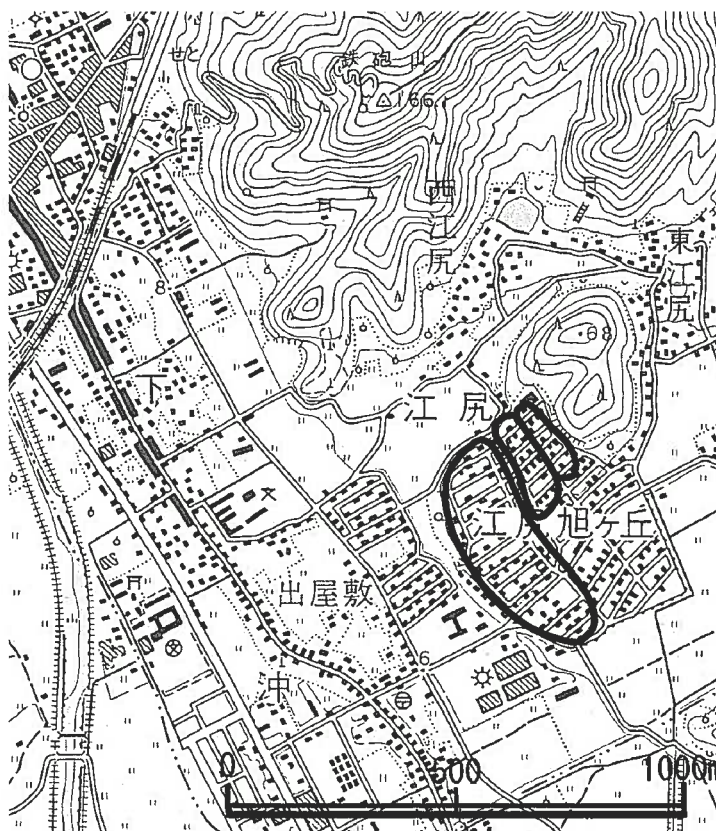


図1 陣場山遺跡位置図

【交通】瀬戸旭ヶ丘緑地遺跡公園：JR山陽本線「瀬戸駅」から南約1.2km 徒歩20分

### 【引用・参考文献】

- 木村幹夫・土井秋夫 1957「円筒棺を出した備前赤磐郡江尻陣場山前方後円墳について」『瀬戸内考古学 創刊号』瀬戸内考古学会
- 角田茂 1972「遺跡開発をめぐる苦悩」『考古学研究 第19巻第1号』考古学研究会
- 矢部秋夫 1985「古墳と条里制遺構」『瀬戸町誌』瀬戸町
- 矢部秋夫 1985「陣場山遺跡について」『瀬戸町史料集』瀬戸町
- 福田正嗣 1986「陣場山遺跡群」『岡山県史 考古資料』岡山県
- 『瀬戸町の歴史散歩 改訂版』瀬戸町の文化財を語る会 1996



- 1 円墳・内部主体は円筒棺
- 2 陣場山古墳群 主墳：円墳  
シスト1, 粘土層2
- 3 方墳 粘土層
- 4 円墳 シスト
- 5 円墳, 小シスト, 小粘土層
- 6, 9 方墳, シスト
- X<sub>1</sub> 円墳, 粘土層, 勾玉, 小玉
- X-11 須恵器高杯出土
- T-1~T-8 円筒埴輪棺墓
- R シスト
- D-1 土坑墓群鉄器, ガラス玉
- D-2 住居址 (弥生)
- K<sub>2</sub> 土器棺
- D-3 土坑墓群
- D-4
- S 木棺墓
- C 建物柱穴群
- A 円墳, 円筒棺
- B 円墳 盾形埴輪  
朝顔形埴輪を棺に  
使用
- シスト1

図2 陣場山遺跡遺構配置図

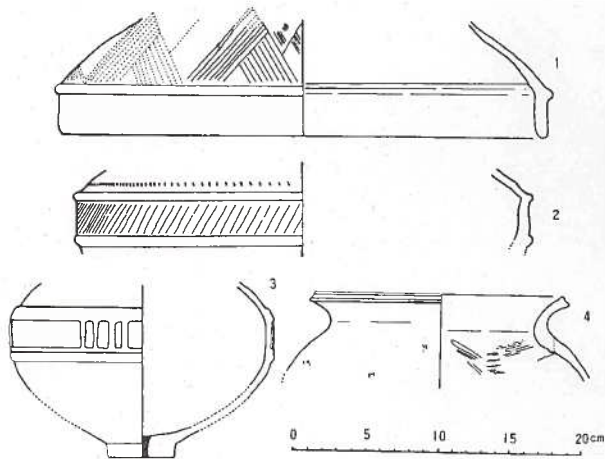


図3

- 1・2 土壌墓群 (D-3) 出土の  
特殊器台と特殊壺  
3. 4 住居跡 (J1) 出土の土器

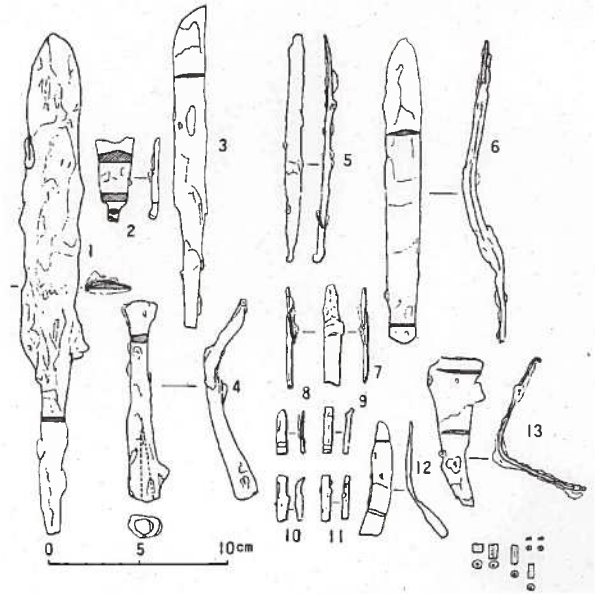


図4

- 土壌墓群 (D-1) 出土の鉄器とガラス玉

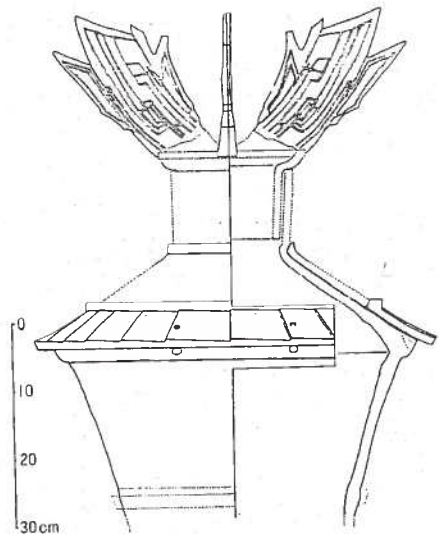
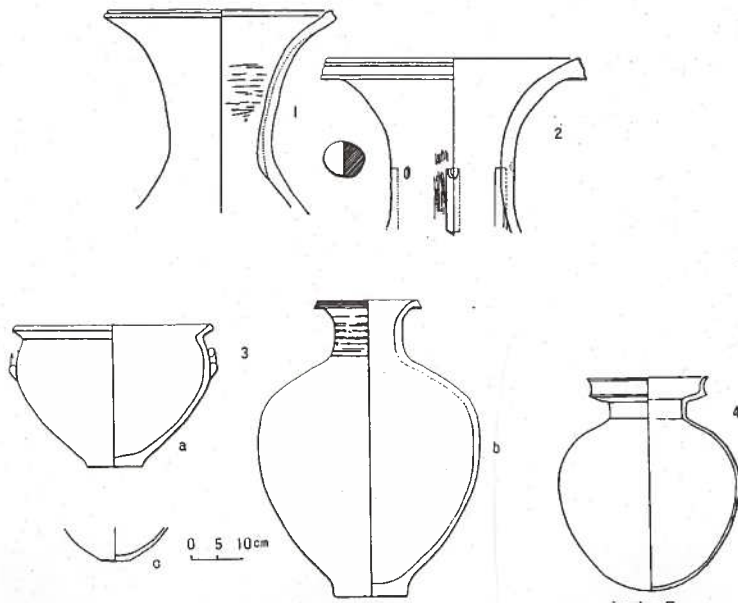


図5

- 蓋埴輪復元図  
円筒埴輪棺 (T-2) 内から出土

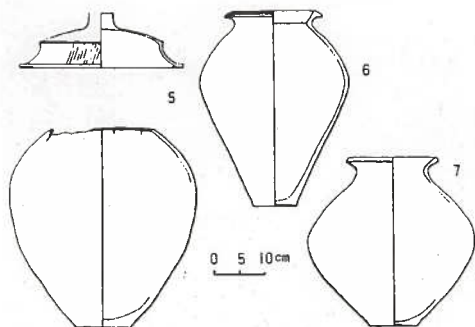


図6

- 1 住居跡 (J1) 出土の土器  
2 住居跡 (J) 出土の土器  
3. 5, 6, 7 土壌墓群 (D-3.4) 出土の土器  
4 土壌墓溝状遺構 (K2) 出土の土器



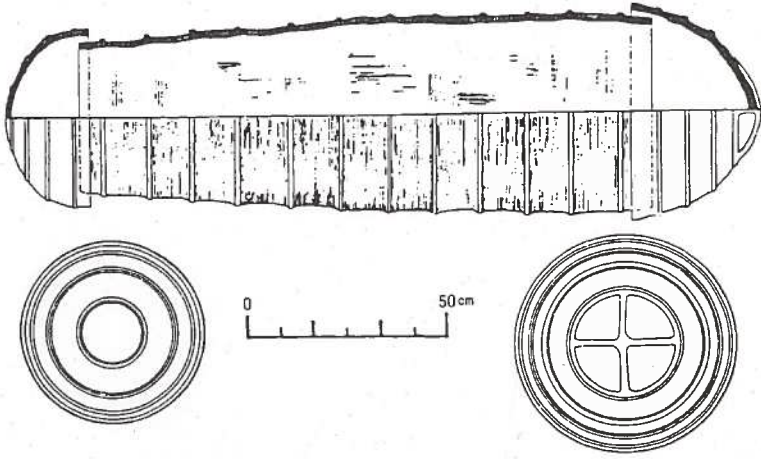


図7  
I号円筒棺復元図 (A 出土)

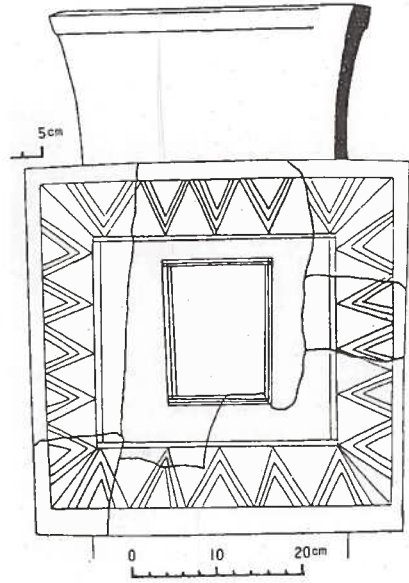


図8  
IV号棺盾復元図 (B 出土)

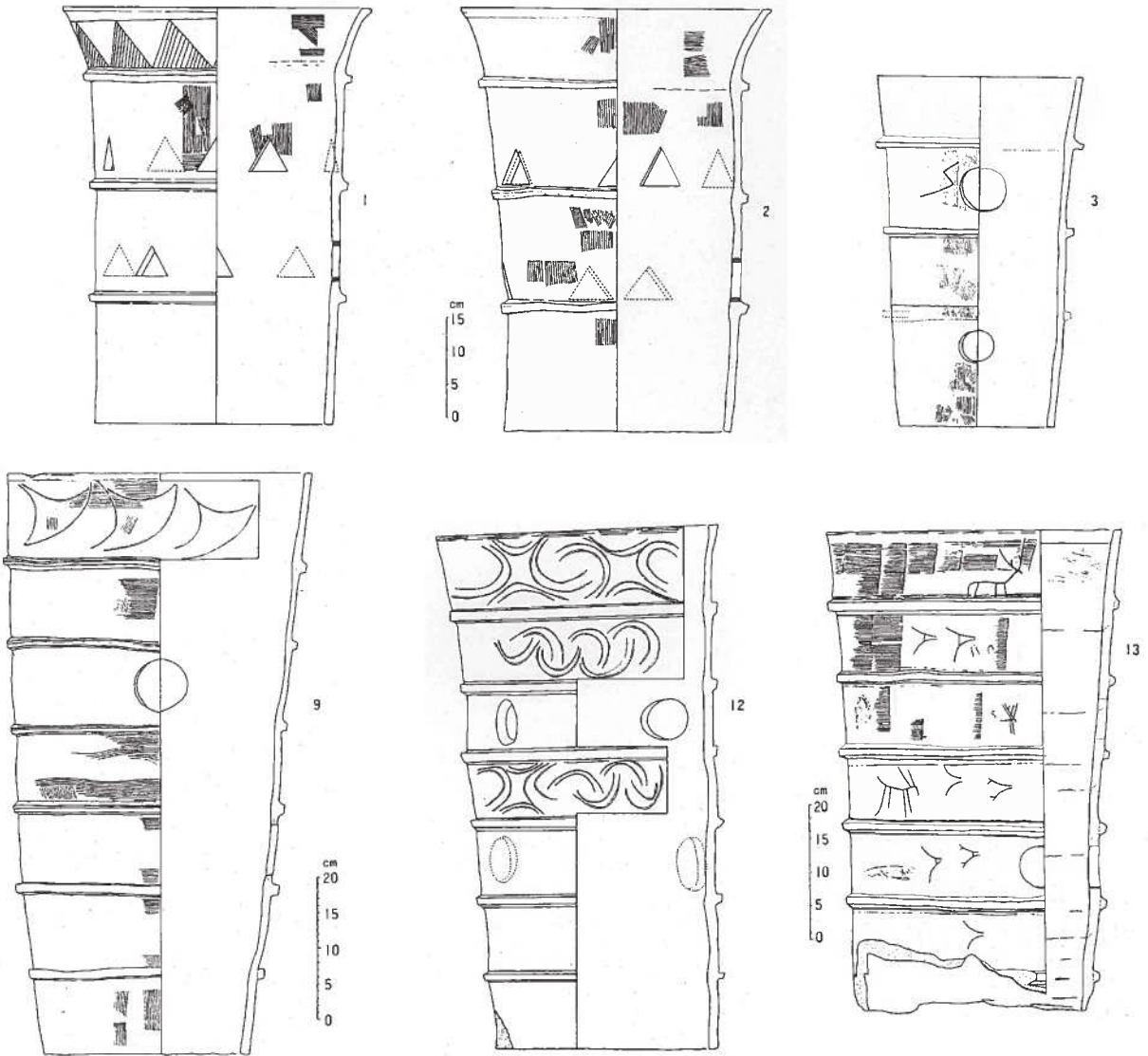


図9 棺として使用された円筒埴輪